令和８年度小平市立小平第四小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

１　調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

２　調査内容

（１）教科に関する調査

身に付けておかなかければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

全国平均を 3pt 上回る平均正答率であった。内容の中心を捉えたり叙述をもとに必要な情報を読み取ったりする力については、比較的よく身に付いている。問題によっては全国や東京都の平均を上回る正答状況も見られ、文章の内容を捉え考える力が強みといえる。

課題

漢字を正しく読んだり書いたりすることや語句を適切に扱うことなど、基礎的な言語事項の定着に課題が見られた。漢字を書く問題に関しては 10pt も下回る結果だった。また、必要な情報を整理し、条件に合わせて適切な言葉でまとめて書くことに難しさがあることがうかがえた。

学校で取り組む具体的な改善策

○漢字や語句の反復学習を継続し、基礎的な言語事項の定着を図る。
○読み取った内容を整理し、自分の考えを書く活動を計画的に取り入れる。
○理由や根拠を明確にして説明したり、書いたりする学習を充実させる。
○日常的に文章を書く機会を設け、表現する力を育成する。

【算数】

状況の分析

全国平均を上回る平均正答率であったが、東京都平均には及ばなかった。領域別では、「数と計算」「変化と関係」の正答率が高く、全国平均を 5pt 以上上回った。基礎的な計算力や数量の関係を捉える力が身に付いていることがうかがえる。

課題

「図形」に係る出題について、東京都平均に比べ 8pt 低く、図形の性質や意味の理解が不十分な児童が多く見られた。また、「データの活用」では都平均より 4pt 低く、資料を読み取り必要な情報を整理分析して活用する力に課題が見られる。

学校で取り組む具体的な改善策

○自分の考えを図や式などを使って、ノートに思考過程を整理して書き、説明する学習を引き続き行い、「思考・判断・表現」の更なる向上を目指す。
○朝学習や補習の時間に、東京ベーシックドリルを活用した復習を行い、「知識・技能」の定着を図る。
○習熟度に応じて授業の始めに既習事項を復習することで基礎基本の定着を図る。
○図や数直線等を活用して説明する等、主体的に学習に取り組む授業づくりを行う。

〈規則正しい生活習慣の継続〉

「朝食を毎日食べている」児童が 94.8%に達し、全国（93.3%）を上回る高い水準を維持している。

〈ICT 活用の自信と表現力〉

5 年生までの学びを通じて、90.9%の児童がインターネットでの情報収集に自信をもち、89.6%がスライド作成能力を自認している。

〈豊かな人間関係と満足度〉

「友達関係に満足している」児童は 94.8%に上り、心理的安全性が確保された集団であることが確認された。

〈読書習慣の二極化と図書館利用〉

普段全く読書をしない児童は 11.7%であり、読書時間が 10 分未満の児童も含めると 20.8%となる。また、学校図書館に「ほとんど・全く行かない」児童が 33.8%存在し、読書環境の活用が依然として課題である。

〈算数への苦手意識の払拭〉

算数が「得意ではない」児童が 28.6%、「好きではない」児童が 33.8%いる。昨年度の 35%からは改善傾向にあるが、依然として他教科より否定的な回答が目立つ。

〈自己肯定感の継続的な支援〉

「自分にはよいところがある」という問いに否定的な児童 13.0%（昨年度は 18%）に減少したが、依然として 10 名の児童が自信をもてずにいる。一人一人の「よさ」を自覚させる支援が引き続き重要である。

学校で取り組む具体的な改善策

〈「わかる・できる」を実感させる算数指導〉

調査結果から基礎的な「数と計算」の力は身に付いているため、朝学習や補習でデジタルドリルや「東京ベーシックドリル」等を活用し、習得を可視化して自信につなげる。また、自分の考えを説明する活動を充実させ、思考の深まりを実感させる。

〈読書の習慣への意欲を高める工夫〉

図書の時間以外にも朝学習や隙間時間での読書を励行するとともに読んだ本について記録をしたり、友達と交流し合ったりする機会を設けて読書への意欲を高める。また、委員会とも連携して、図書室に足を運びたくなるようなアイデアを実施していく。

〈ICT を「思考の道具」として高度化〉

得意なスライド作成や検索スキルを、単なる発表だけでなく、「情報の整理・分析」にまで発展させる。シンキングツールなどを活用し、自ら課題を解決する達成感を味わわせる。

〈多角的な承認による自己肯定感の醸成〉

教師による個別の価値付けを徹底するとともに、掲示物やカード、ICT 等の相互評価機能を活用して友達同士で「よさ」を伝え合う機会を日常的に設け、自己肯定感を高める。